1.　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090700784		
法人名	社会福祉法人　風の森		
事業所名	グループホーム　ほたるのまち		
所在地	福岡県北九州市八幡西区上上津役5-8-1 （電　話）(093)613-1170		
自己評価作成日	令和　4　年　5　月　20　日	評価結果確定日	令和　4　年　8　月　9　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	令和　4　年　6　月　17　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小規模多機能、特別養護老人ホーム、グループホームの複合型施設であり、入居後のADLの変化や御家族の希望等で住環境をあまり変えずに、転居することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは静かな住宅地の緑の多い環境にある。3階のグループホームの外には、広い屋上スペースがあり、運動や交流ができる。2階には外部に空中回廊があり、利用者が心を休めることができる場所となるよう、回廊の途中に植物を植え、散歩や身体機能回復に活用できる環境となっている。行事等で職員によるフルート演奏を行う等、利用者を和ませる努力がなされている。

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者を思いやり、寄り添った支援を心掛けている。	事業所の理念に「これまでのご利用者が歩んできた人生の重さ」「これからの人生の重さ」とあり、より良い人生になるような支援が示されている。地域の中で過ごす重要性が職員間で共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今のコロナ禍の状況により地域交流は積極的に行えていない。	自治会に加入し、清掃等の地域活動に参加している。近隣の幼稚園の子ども達との交流をはじめ、夏祭り、餅つき等の地域交流がなされている。コロナ禍前は、事業所主催の「焼き芋会」等の行事に地域の方が参加していた。コロナが落ち着いたら再開する予定である。	
3	―	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組めていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初は施設にて運営推進会議を行うことができていたが、感染症防止の為、運営推進会議は書面開催を余儀なくされており、直接的な意見交換の場は設定されていない。	コロナ禍のため、現在は2ヶ月に1回、書面協議を実施している。地域包括支援センターや利用者家族、民生委員等が参加している。会議内容は、グループホームの運営状況やヒヤリハット等の事故防止のための個別事例が検討されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営にあたって、疑問に思ったことについて、連絡を取っている。	行政とは日頃からサービスの状況報告等について、情報を共有している。また、困難事例についての相談を行う等、関係を構築するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。身体拘束については定期的な勉強会を通じて理解し、取り組みを徹底している。	日中は出入口や玄関の施錠をしていない。法人に身体拘束防止委員会があり、ベッド柵やミトンによる拘束、スピーチロック等、身体拘束防止についての研修がなされ、職員間での点検や話し合いを定期的に行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、また管理者は入居者に対する職員に言動を観察し、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については多少の理解はあるが、勉強会等の理解を深める機会はない。	全職員に対して権利擁護に関する研修が行われており、テキスト等を整備しているが、成年後見制度についての研修は行っていない。	成年後見制度について職員研修を実施してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様、キーパーソンの方々との意見交換は随時受付ており、十分な意見意思の疎通が図られている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が書面開催となっている中、御家族の来設の機会を活用し、意見交換の場とするよう努めている。	利用者家族が運営推進会議に参加し、生活や活動に対する意見や思いを述べる機会がある。コロナ禍での面会について家族からの要望があったため、携帯電話を活用し、声の交流ができる方法を取り入れ、家族との交流を可能とする等、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は同じフロア内で業務を行っており、その都度、職員からの意見や要望を聴き、代表者に伝え、可能な範囲で反映させている。	行事やイベントにおいて職員によるフルート演奏を行う等、職員の提案を運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性化している人員不足の中、可能な限りの対策と対応は行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては公正な採用ルールを順守し、また、職員に関しては、管理者が介助を実践し、利用者と楽しく過ごせ、仕事にやりがいを感じてもらえるようにしている。	職員採用において性別や年齢の差別はしていない。定年後も働き続けることが可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組めていない。	利用者の人権尊重についての研修に一部の職員が参加している。オンライン研修等を利用して、全職員への研修体制の構築を検討している。	全職員に対して人権教育、啓発活動に取り組んでほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は外部研修に参加できていたが、感染症蔓延により、外部研修は参加できていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人や関係法人間での情報交換は行えているが、他事業所間との活動は自粛中。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態を把握、相談し、要望を家族に相談、了承を得た上で、サービスを行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前に家族の要望の聞き取りを行い、本人の状態に合ったサービスを導入している。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に相談者の悩みを聞き、グループホームとはどういうところか、納得いくまで説明し、ADLや相談内容を踏まえ、場合によっては他サービスの話をし、検討して頂いている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できている職員とできていない職員がいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症防止の為、家族との接触は管理者のみで行っているが、ケアに関することを職員と話し合い、家族に伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会が失われており、包括的な地域交流が行えていない。今後、徐々に開始予定。	入所時に利用者の馴染みの人や場所を聞き取っている。また、日常の会話で利用者から内容を聞き取っている。馴染みの場所を訪問したり、知人との手紙や電話で交流の継続を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者の関係性を把握し、職員を含めた他者とコミュニケーションが取れるよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後に、家族や退所後の施設より相談があった場合は、できる範囲で支援や対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症もあり、不明な点はあるが、時々の利用者の生活の意向、本人のペースを尊重し、生活を送っていただいている。	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、思いや希望、意向の把握に努めている。趣味を楽しめるよう支援する等、利用者本位の生活が送れるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や他サービスを利用している場合は、利用施設職員より、情報収集を行い、集めた情報に対して疑問に思ったことは、本人や家族に対し情報収集を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録に残し、職員間で共有できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議での話し合いや、都度の職員からの提案を計画作成担当者が把握し、家族に相談しながら、入居者に即したプランを作成している。	本人や家族の意向を聞き取り、一人ひとりに合った計画作成を行っている。健康観察の徹底を計画に盛り込む等、利用者や家族の意見を反映している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や職員からの話を元にプラン更新時に見直し、変更を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対し、その都度職員と話し合いながら、対応はしているが、多角的な支援はできていない。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源をはじめ、ボランティアの受け入れも困難であったことから、実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医療機関による往診、かかりつけ専門医への御家族の付き添いによる受診は行えている。	家族の納得のもと、2週間に1度の往診がある協力医に変更してもらっている。受診時の通院介助の方法や情報の伝達方法について、家族と話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化をしっかりと観察、把握し、状態に変化があれば、看護師に報告をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先医療機関や医療ソーシャルワーカーとの連絡は密に行えており、入院中の状態把握と退院後の支援についても、事前に検討が十分に行われている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階ではないが、状態変化に伴う今後の方向性について御家族と関係法人と協議して、支援に取り組んでいる。	看取りは行っておらず、グループホームとして明文化していない。入所時に重度化した時の対応については、同じ建物の特養への入所、老健や緩和ケア病院の入所等の選択肢があることを丁寧に説明している。	法人としての重度化や終末期に向けた指針はあるが、グループホームとして明文化したものがないため、グループホーム独自の指針の作成が望まれる。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間帯での緊急事態に対応できるマニュアルはすでに作成され職員への周知徹底が行えている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施、消防署からの指導も受け、緊急時への備えを実行している。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。コロナ禍のため、地域と合同での訓練は難しいが、落ち着いたら開催する予定である。備蓄品については、水、堅パン、缶詰パン等、3日分の用意がある。	
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語のみの対応は行えていないが、対応の悪い職員に対してはその都度、注意をしている。	一人ひとりの人格を尊重して対応するよう心掛けている。内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で自己決定できる利用者に対しては行動や言動に対して、どうしたいのか都度、対応しているが、表現ができない利用者に対しては、認知症の理解が出来ていない職員が多く、職員が主体となって支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、本人のペースで希望に沿って生活をして頂いているが、業務優先になっているケースがある。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の状態もあり、自身で服を選んでいる利用者といない利用者がいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は厨房にて行っているが、片付けはできる範囲で一緒に行っている。	コップは利用者個人のものを使用している。見た目の変化で食欲をそそるよう、ワンプレートにしたり、青魚を好まない利用者には別の食材を提供する等、利用者の嗜好に沿って食事を楽しめるよう工夫している。現在は食事介助者が多いため、一緒に食事をするのが難しい状況である。	介助する一方にならずに、職員が利用者と一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を期待したい。

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御家族よりの情報による個々の今までの食事量や本人の病状、嚥下や咀嚼等を管理栄養士と差横断して食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のペースで毎食後、口腔ケアを行い状態に変化があれば、職員と相談しながらケアの変更を検討し、口腔衛生に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の対策は、職員と話し合いながらケアを行っているが、オムツやパッドの種類の変更に頼っているのが現状である。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行っている。排泄を失敗した利用者には、他の利用者に分からないよう配慮している。ほぼ全員がパット使用のため、時間帯によってパットの種類を変える等して、利用者に不快な思いをさせないよう取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼った排便コントロールを行っているのが現状ではあるが、朝食に牛乳やヤクルト等の乳製品を提供したり、便秘気味の利用者には好みにあった飲料水を提供し、多めに摂取して頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	日々の職員数、業務の都合で入浴介助を行ってる。	風呂は毎日準備しているが、利用者は週2回の間隔で入浴していただいている。入浴を望まない利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	職員の都合で入浴日や回数を決めずに、利用者の希望に合わせた入浴支援を行うことができるよう検討してほしい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は本人のペースで居室で休んだりしているが、夜間に限っては19時より一人勤務になり、事故防止の観点からある程度、就寝する時間を決めている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所時と処方変更時に職員全員、服薬情報に目を通すようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる事や希望を踏まえ、施設内での日課を持っている入居者がいるが、買い物等の屋外へ出る支援は感染症防止の為、出来ていない。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内での外気浴は天候や本人の希望、体調を見て支援しているが、施設外への外出は出来ていない。	コロナ禍で外出もままならないが、建物2階にある「空中回廊」を活用し、週2～3回、戸外の風と光を感じてもらっている。コロナ以前は近くの桜の名所にドライブしたり、家族との外食等を楽しんでいた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭の所持は紛失や入居者間のトラブルの観点から、入所時に御家族に理解していただき、所持できないようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話による面会は、時間帯の制限はあるが、積極的に受け付けており、活用されている家族もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人ができる事は見守りや一部介助しながら、支援をしている。また、良く使用する自室やトイレはわかるよう、本人の名前を書いたり、絵を表示したりしている。	利用者が共同で作成した壁画を飾っており、季節を感じてもらえるよう、季節ごとの飾りつけを心掛けている。トイレや風呂の案内表示が分かりやすく掲げられており、利用者が混乱しないよう配慮している。	

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	―	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に合わせテレビ視聴することが好きな利用者、他者と談笑することが好きな利用者等、本人の習慣に合わせて席の配置を行い、楽しく過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	金銭の持ち込みや、危険なもの以外は制限なく、自宅より持ってこられた馴染みの物を手に取れるよう、自室に置いている。	居室入口に表札を兼ねた手作りの飾りを取り付けている。ベッドとタンスは施設提供で、利用者は好みのぬいぐるみや家族写真、花を飾る等、過ごしやすい部屋となるよう工夫している。	
57	―	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止の観点から居室やフロアでの席の配置等は利用者のADLの変化によって工夫はしているが、利用者の不安や混乱等に対する工夫はできていない。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）		①毎日ある
				②数日に１回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
			○	③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者を思いやり、寄り添った支援を心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今のコロナ禍の状況により地域交流は積極的に行えていない。		
3	―	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組めていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初は施設にて運営推進会議を行うことができていたが、感染症防止の為、運営推進会議は書面開催を余儀なくされており、直接的な意見交換の場は設定されていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営にあたって、疑問に思ったことについて、連絡を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ玄関の施錠を行っている。 身体拘束については定期的な勉強会を通じて理解し、取り組みを徹底している。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、また管理者は入居者に対する職員に言動を観察し防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については多少の理解はあるが勉強会等の理解を深める機会はない。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様、キーパーソンの方々との意見交換は随時受付ており、十分な意見意思の疎通が図られている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議が書面開催となっている中御家族の来設の機会を活用し、意見交換の場とするよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は同じフロア内で業務を行っており、その都度、職員からの意見や要望を聴き、代表者に伝え、可能な範囲で反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性化している人員不足の中、可能な限りの対策と対応は行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては公正な採用ルールを順守し、また、職員に関しては、管理者が介助を実践し、利用者と楽しく過ごせ、仕事にやりがいを感じてもらえるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組めていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前は外部研修に参加できていたが、感染症蔓延により、外部研修は参加できていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人や関係法人間での情報交換は 行えているが、他事業所間との活動は 自粛中。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態を把握、相談し、要望を家族に相談、了承を得た上で、サービスを行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを作成する前に家族の要望の聞き取りを行い、本人の状態に合ったサービスを導入している。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に相談者の悩みを聞き グループホームとはどういうところか 納得いくまで説明し、ADLや相談内容を踏まえ、場合によっては他サービスの話をし、検討して頂いている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できている職員とできていない職員がいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症防止の為、家族との接触は管理者のみで行っているが、ケアに関することを職員と話し合い、家族に伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会が失われており、 包括的な地域交流が行えていない。 今後、徐々に開始予定。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者の関係性を把握し、職員を含めた他者とコミュニケーションが取れるよう支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設退所後に、家族や退所後の施設より相談があった場合は、できる範囲で支援や対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症もあり、不明な点はあるが、時々の利用者の生活の意向、本人のペースを尊重し、生活を送っていただいている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や他サービスを利用している場合は、利用施設職員より、情報収集を行い、集めた情報に対して疑問に思ったことは、本人や家族に対し情報収集を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録に残し、職員間で共有できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議での話し合いや、都度の職員からの提案を計画作成担当者が把握し、家族に相談しながら、入居者に即したプランを作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や職員からの話を元にプラン更新時に見直し、変更を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対し、その都度職員と話し合いながら、対応はしているが、多角的な支援はできていない。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域資源をはじめ ボランティアの受け入れも困難であったことから、実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医療機関による往診 かかりつけ専門医への御家族の付き添いによる受診は行えている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化をしっかりと観察、把握し、状態に変化があれば、看護師に報告をしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先医療機関や医療ソーシャルワーカーとの連絡は密に行えており、入院中の状態把握と退院後の支援についても 事前に検討が十分に行われている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階ではないが、状態変化に伴う 今後の方向性について御家族と関係法人と協議して、支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間帯での緊急事態に対応できるマニュアルはすでに作成され職員への周知徹底が行えている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施、消防署からの指導も受け、緊急時への備えを実行している。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語のみの対応は行えていないが、対応の悪い職員に対してはその都度、注意をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身で自己決定できる利用者に対しては行動や言動に対して、どうしたいのか都度、対応しているが、表現ができない利用者に対しては、認知症の理解が出来ていない職員が多く、職員が主体となって支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、本人のペースで希望に沿って生活をして頂いているが、業務優先になっているケースがある。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の状態もあり、自身で服を選んでいる利用者といない利用者がいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は厨房にて行っているが、片付けはできる範囲で一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御家族よりの情報による個々の今までの食事量や本人の病状、嚥下や咀嚼等を管理栄養士と差横断して食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のペースで毎食後、口腔ケアを行い状態に変化があれば、職員と相談しながらケアの変更を検討し、口腔衛生に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗の対策は、職員と話し合いながらケアを行っているが、オムツやパッドの種類の変更に頼っているのが現状である。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼った排便コントロールを行っているのが現状ではあるが、朝食に牛乳やヤクルト等の乳製品を提供したり、便秘気味の利用者には好みにあった飲料水を提供し、多めに摂取して頂いている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	日々の職員数、業務の都合で入浴介助を行ってる。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は本人のペースで居室で休んだりしているが、夜間に限っては19時より 一人勤務になり、事故防止の観点から ある程度、就寝する時間を決めている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所時と処方変更時に職員全員、服薬情報に目を通すようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる事や希望を踏まえ、施設内での日課を持っている入居者がいるが 買い物等の屋外へ出る支援は感染症防止の為、出来ていない。しせつ		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設敷地内での外気浴は天候や本人の 希望、体調を見て支援しているが、 施設外への外出は出来ていない。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭の所持は紛失や入居者間のトラブルの観点から、入所時に御家族に理解していただき、所持できないようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話による面会は、時間帯の制限はあるが、積極的に受け付けており、活用されている家族もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人ができる事は見守りや一部介助しながら、支援をしている。 また、良く使用する自室やトイレはわかるよう、本人の名前を書いたり、絵を表示したりしている。		

自己評価および外部評価結果

令和4年8月9日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に合わせテレビ視聴することが好きな利用者、他者と談笑することが好きな利用者等、本人の習慣に合わせて席の配置を行い、楽しく過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	金銭の持ち込みや、危険なもの以外は制限なく、自宅より持ってこられた馴染みの物を手に取れるよう、自室に置いておている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止の観点から居室やフロアでの席の配置等は利用者のADLの変化によって工夫はしているが、利用者の不安や混乱等に対する工夫はできていない。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。（参考項目：9,10,21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。（参考項目：2,22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。（参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働けている。（参考項目：11,12）		①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
			○	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない